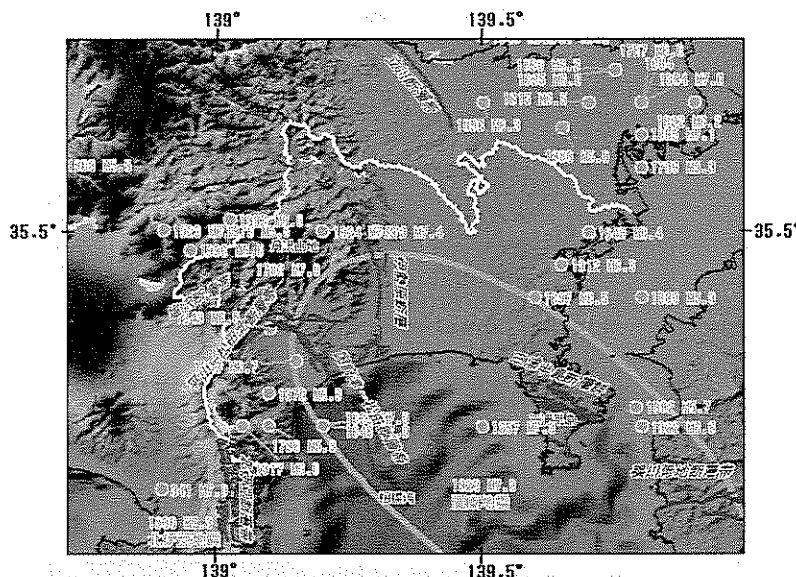


神奈川県地震活動の特徴

神奈川県に被害を及ぼす地震は、主に相模湾から房総半島南東沖にかけてのプレート境界付近で発生する地震と、陸域の様々な深さの場所で発生する地震です。

神奈川県とその周辺的主要被害地震（図をクリックすると拡大表示）



相模湾から房総半島南東沖にかけてのプレート境界付近で発生する地震としては、1923年の関東地震（M7.9）がよく知られています。この地震の震源域は、県内のほぼ全域を含んでいると考えられており、県内では強い揺れが生じました。県内の全域で震度6の揺れとなり、南部の一部では震度7相当の揺れが生じたと推定されています。火災による被害も合わせて、県内では死者・行方不明者33,067名などの非常に大きな被害が生じました。さらに、1923年の関東地震の余震である1924年の丹沢山塊の地震（M7.3、丹沢地震と呼ぶこともあります）でも、県内で死者13名などの被害が生じました。また、1703年の元禄地震（M7.9～8.2）でも、小田原をはじめ沿岸部を中心に、死者約2,300名などの大きな被害が生じました。

県西部地域では、1633年の相模・駿河・伊豆の地震（M7.0）、1782年の相模・武蔵・甲斐の地震（M7.0）、1853年の小田原付近の地震（M6.7）などのM7程度の被害地震が繰り返し発生してきました。これらの地震と1703年の元禄地震（M7.9～8.2）、1923年の関東地震（M7.9）の発生年数などから、この地域に被害を及ぼす大地震が、約70年間隔でほぼ規則的に繰り返し発生し、現在は次の発生時期にあつているという説が出されています。これは、歴史の資料の解釈に基づくと同時に、フィリピン海プレート上の伊豆半島が陸側のプレートの下に沈み込まずに衝突しているために、関東地方の下に沈み込むフィリピン海プレートと伊豆半島の間が、裂けるような形で破壊されなければならないという考えに依っています。一方で、この説に関してはいくつかの異論も唱えられています。

県北西部の丹沢山地から山梨県東部にかけての深さ10～30kmの場所では、伊豆半島が陸側のプレートに衝突するために生じると考えられる地震活動が活発で、M5～6程度の地震は、数年に1回の割合で発生し、若干の被害が生じたことがあります。

陸域の深い場所で発生した地震としては、最近では1992年の東京湾南部（浦賀水道付近）の地震（M5.9、深さ9.2km）などで若干の被害が生じたことがあります。

1855年の（安政）江戸地震（M6.9）や（明治）東京地震と呼ばれる1894年の地震（M7.0）、1930年の北伊豆地震（M7.3）など周辺地域で発生する地震や東海沖・南海沖などの太平洋側沖合で発生するプレート境界付近で発生する地震によっても被害を受けたことがあります。さらに、外国の地震によっても津波被害を受けたことがあります。

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」では、県内で死者6名、負傷者137名などの被害が生じました（平成31年3月1日現在、消防庁調べ）。

神奈川県の主要な活断層には、県中部に南北に延びる伊勢原断層、静岡県との県境の丹沢山地南縁から相模湾に延びる塩沢断層帯・平山-松田北断層帯・国府津-松田断層帯（神縄・国府津-松田断層帯）、三浦半島中南部とその周辺海域に分布する三浦半島断層群、県西部から伊豆半島に延びる北伊豆断層帯があります。また、県内に被害を及ぼす可能性のある海溝型地震には、相模トラフ沿いで発生する地震などがあります。

県全域が、「首都直下地震緊急対策区域」に指定されています。

県内の27市町が、「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されています。また、13市町は「南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域」に指定されています。

【神奈川県周辺の主要活断層帯と海溝で起こる地震】
 【神奈川県に被害を及ぼした主な地震】 【リンク】

○神奈川県周辺の主要活断層帯と海溝で起こる地震 [\[上に戻る\]](#)

地震		マグニチュード	地震発生確率 (30年以内) <small>[地震発生確率帯の留意点]</small>
海溝型地震			
日本海溝沿い	超巨大地震 (東北地方太平洋沖型)	9.0程度	ほぼ0%
	福島県沖	7.0~7.5程度	50%程度
	茨城県沖	7.0~7.5程度	80%程度
	青森県東方沖から房総沖にかけての海溝寄り	M _s 8.6~9.0	30%程度
	沈み込んだプレート内の地震	7.0~7.5程度	60%~70%
	房総沖	-	-
相模トラフ	相模トラフ沿いのM8クラスの地震	8クラス (7.9~8.6)	ほぼ0%~6%
	プレートの沈み込みに伴うM7程度の地震	7程度 (6.7~7.3)	70%程度
南海トラフ	南海トラフで発生する地震	8~9クラス	70%~80%
内陸の活断層で発生する地震			
深谷断層帯・綾瀬川断層 (関東平野北西縁断層帯・元荒川断層帯)	深谷断層帯	7.9程度	ほぼ0%~0.1%
	綾瀬川断層(鴻巣-伊奈区間)	7.0程度	ほぼ0%
	綾瀬川断層(伊奈-川口区間)	7.0程度	不明
立川断層帯	7.4程度	ほぼ0.5%~2%	
鶴川低地断層帯	7.2程度以上	不明	
三浦半島断層群	主部(衣笠・北武断層帯)	6.7程度 もしくはそれ以上	ほぼ0%~3%
	主部(武山断層帯)	6.6程度 もしくはそれ以上	6%~11%
	南部	6.1程度 もしくはそれ以上	不明
伊勢原断層	7.0程度	ほぼ0%~0.003%	
塩沢断層帯・平山-松田北断層帯・国府津-松田断層帯 (神縄・国府津-松田断層帯)	塩沢断層帯	6.8程度以上	4%以下
	平山-松田北断層帯	6.8程度	0.09%~0.6%
	国府津-松田断層帯	相模トラフで発生する海溝型地震と同時に活動すると推定	
曾根丘陵断層帯	7.3程度	1%	
富士川河口断層帯	ケースa	8.0程度	10%~18%
	ケースb	8.0程度	